

今号のわだい

- 【1面】第37回女性集会in福島
【2面】被災地を視察して
【3面】厚労省交渉・湖東病院開院
【4面】読者の声、新パズル

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連

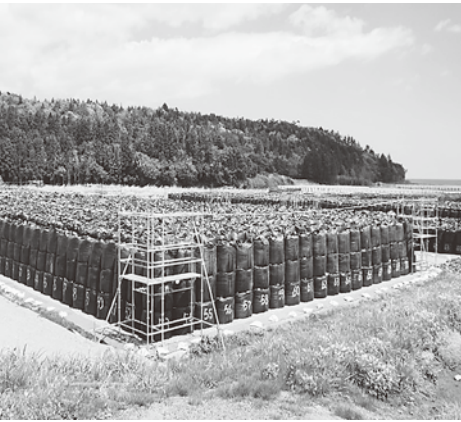
〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
http://www.zenkouro.org/

被災地・福島原発の実情を見て感じて

～第37回全厚労女性集会in福島～



2012年10月7日
大熊町の実家に一時帰宅、46.36マイクロシーベルト



2014年5月2日
楢葉町の除染廃棄物仮置き場
青い空と海、緑の山とのコントラストが痛々しい

全厚労は6月13・14日、第37回女性集会を福島県いわき市の「スパリゾートハワイアンズ」にて開催し、16県150名が参加しました。3年以上経った今も復興・帰還できない被災地・被災者の実情を見て聞いて感じて、自分たちに出来ることをやろうと話し合いました。

主催者挨拶に立った茂原委員長は、大飯原発稼働差し止めの命じた福井地裁判決に触れ、「人を大事にする」「人格権」「こそ最優先。医療・社会保障分野でも『人格権』守る立場で、男女が助け合って取り組みを進めていきましよう」と訴えました。

基調報告もかねて挨拶した折笠女性委員長は、「母性保

人生が変わり、家族がバラバラにふるさとかえせ！と国・東電提訴

一つ目の特別報告として金井直子さん（福島原発避難者訴訟原告団事務局長）に、被災・避難者の一人として当時の様子や現状をお話いただきました。

震災が起きて4ヶ月後、自宅に帰った時、冷蔵庫の中のもの腐り、家全体がかび臭さに覆われ、2時間までの滞在でとても自宅に帰ったとは思えなかったことをしみじみ

護と女性の権利を学び行使する、いのちと性を大事にするのが女性委員会の活動です。

女性には平和を好むことが原点であり、出発点です。原発事故は収束しておらず、今も苦しみを続けている福島のことを知り、私たちに何ができるか、一緒に考えていく集会にしましょう」と呼びかけました。

原発事故を収束させるために
原発労働者の環境改善の運動を

渡辺博之さん（原発をなくすいわきの会・いわき市議会議員）は、原発作業員の劣悪な労働環境・労働条件の改善なしには事故の収束はできないと強く訴えられました。

ずさんな工事がなされている汚染水タンクのことや一歩間違えば大きな火災となかなかねない消防法違反の給油作業、また「退職が被曝隠し」を迫られる線量計外しの実態、危険な高汚染地域での活動など、人を使い捨てにしている実態を告発されました。そう

「賠償金よりも家に帰りたい」というのが本音だけれども、元の暮らしに戻れるわけでもない、でも責任の所在をはっきりさせたいと原告団事務局長を引き受けたそうです。



写真を見せて話す金井さん

いというのが本音だけれども、元の暮らしに戻れるわけでもない、でも責任の所在をはっきりさせたいと原告団事務局長を引き受けたそうです。

参加者の感想

●3年経過したけど…（涙）
金井さんの話に、なんともいえない重さ、凄さを感じる。現場にこないとか分らない。当事者の生の声を聞くことはよかった。（岐阜）

●テレビでは実感できないことを体感できてよかった。いろいろな情報が入ってくる、例えば、政府は復興していると言っていたが、現実は全く違うことに、現場を見させてもらって痛感した。復興のことは、日本全体で考えなければとても前に進まないことを感じた。（三重）

●汚染物を運搬するという景色が想像できない。とてもまだ先が見えてこない。ある大学教授が調査したところによると、ざっと30年かかるというのを聞いた。とても気が遠くなることである。（茨城）

●ただただ恐怖を感じる。現場にいて感じて感じた。（岐阜）

●写真で見るとは全然違う。被災地に来て感じることでできてよかったが、とてもいたたまれない気持ちになる。また、被災された方の方のことを考えると、心が重くなる。（静岡）

●今日の天気はとても暑い。気温は感じることもできるが、生活感を感じることができない。復興がすすんでいくことも想像できない。（香川）

当時を振り返って
いま思う事

震災は、仕事中に起こった。テレビやパソコンなど倒れ、

壊れてしまい全く情報がない状況であった。物理的な応急処置をして、デイサービスの利用者さんを自宅まで送って行ったが、津波が去ったあとでありとても自宅には帰すことは出来なかった。震災後5日間は、デイの施設で利用者さんと過ごした。そして、原発での水素爆発があり、職員は各自対応することになった。そのため、職員は20名ほどから6名ほどになり、対応にも苦慮するようになり、また支援物資も徐々に少なくなり、とても強い不安を感じた。施設での対応が困難となってきたため、利用者さんを3カ所の避難施設に分け、少ない職員も分散して対応することになった。自分の自宅は津波の被害にあり、建物自体はあったが全壊レベルであった。1ヶ月後に避難が解除され、分散していた利用者さんも徐々に町に戻ってきましたが、急増した高齢者と減少した施設の中、被災した施設の定員を上回る入所希望者が殺到しました。財団の支援などをいただき、新施設を建てることでできるとわかり、良かった。ただ、今もなお、職員不足によるところで完全に受け入れができていないわけではない。他の厚生連からの支援もいただいている状況。今回の現地視察を体感し、同じ被災地でも原発の影響があり家に帰ることができない悲しさを感じると、帰ってこれて良かったという思いも感じる複雑な心境である。まだ復興が進んでいない状況のなかがあることが分かり、また被災地へこのように人が来てくれて感じてもらえることができて良かったと思う。（福島）

今も3年前のまま 区域で分断された町

被災地視察ルポ

広野ICに近づくにつ

と感ぜられます。

れ、東電広野火力発電所が見られました。広野町は、2011年8月に政府が「緊急時避難準備区域」に指定、12年4月、避難指示が解除され町民の帰宅を促したが、人口の2割ほどしか戻っていない現状だそうです。

除染作業員の募集は、20〜70歳までで、人が足りていないが、活躍中という表示で募集をしています。これから猛暑の中

「除染の町」 檜葉町に入る

本来は田んぼとして機能する土地が、除染廃棄物の仮置き場として活用されていて、町内の至るところに、フレコンバツクが山積みとされているのが見られました。最初

の頃の仮置き場のカバーは、3年間放置しており、劣化の恐れは十分に考えられるとのことでした。また、この放射能汚染物が置かれている奥には、民家があります(②)。

ガイドさんの線量計では、0.2325マイクロシーベルト。事故前は、0.04マイクロシーベルトであったとのこと。崩壊している手つかずの建物があちこちに見られました。

富岡町で降り、車外へ。 「富岡駅周囲」

バスを降りて、富岡駅まで数百mほど歩くと、その間も被災の跡を目の当たりにしました。横転したままの車もありまし



3 廃棄物と作業員

富岡町へ入る

「東電第二原発立地町」

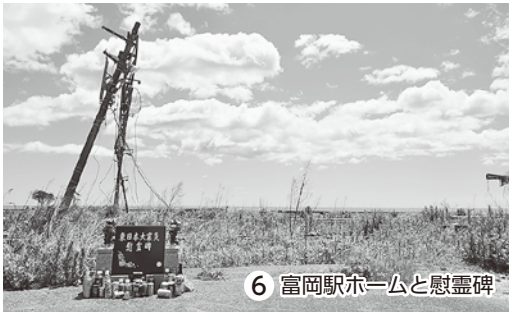
道中、作業員の方々を見かけました。廃棄物の近くでふつうに会話をしていることに驚きました(③)。初めてのコンビニを見つけましたが、閑散としており、とても機能するとは考えられませんが、ガソリンスタンドなどはあいてますが、作業員用であり、生活者用ではありません。



5 地震で止まったままの時計



4 横転したままの車



6 富岡駅ホームと慰霊碑



7 津波でやられたままの建物

富岡駅周辺の 新築分譲地

壊れたままの家があちこちにありました(⑦)。

駅を後にして、バスへ乗り込み、富岡駅周辺の新築分譲地を見学しました。一見、建物自体は活用できそうなものもあるが、家があっても人が帰って来れるのかどうか。生活は避難所で過ごすしかない状況です。

津波のガレキ置き場も震災からほぼそのままの



8 車中からのガレキ置き場

状況が続いており(⑧)、津波で被害にあった建物は、ほとんど新築でローンなどの問題がうかがえます(⑨)。

富岡町の 帰還困難区域

同じ町でも、道路の片側を境に、バリケードを

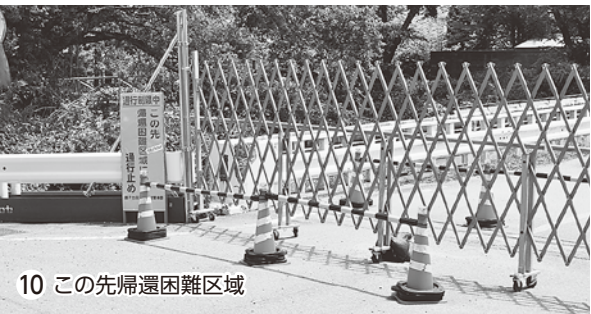


9 新興住宅地だった所の家

設置された区域があり、その境目をバスで通過しました(⑩)。町は三分割されていて、「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」に分かれています。それにより、補償の金額も変わっており、それが町民同士のコミュニケーションの障害や軋轢となつています。

途中、線量計は、0.69マイクロシーベルトを示していました。バスの外は、もっと高いことが予想されます。

視察の最後に、ガイドの金井さんからは「宿泊したホテル(スパリゾートハワイアンズ)と見学地域はさほど遠くない。それでも、復興している町とそうでない町との差は歴然であることがわかっていただけたと思う。



10 この先帰還困難区域

へき地医療の充実・看護職場の改善求めて

14春 厚労省交渉

5月26日、全厚労は20名の参加で厚労省交渉を行いました。

一つめの要請項目である「公的病院への助成」について、担当官は「へき地医療支援機構を通じて広く病院運営補助事業等を行っている。単価引き上げは全省を通じての統一単価なので難しい。また国の負担率の引き上げも財政逼迫状況にあり、これも厳しいところ。家賃補助等については、医師や看護師の宿舍設備への補助があり、活用して欲しい」と答えました。

前回交渉時からの進展はなく、交渉団から吉田病院の研修医の声を紹介して、一定のへき地勤務の制度化や研修等の充実を求めました。

「5局長・6局長通知」の徹底と実践について、労基局は、「通知に基づき各県で企画委員会を開催、労基法やパワハラ等についての研修会を行っている。25年度で延べ4200名の参加があった。また年1回、県の担当者を集めて報告・交流しているが、県の体制もまちまちであり、対応の強弱もあることは確か」と答えました。

交渉団からは、「個々の医療機関にまで通知が浸透していない。研修参加者数も少なすぎる。看護協会のWLBなどで、逆に多様な勤務形態として、長時間夜勤や夜勤専従、長時間

へき地の医師確保問題では、医師のキャリアアップデザインの好事例は、

間日勤なども出てきている。看護職の労働環境改善に繋がっていない」と実態を訴えました。

労基局は「労基法は最低基準であり、規制強化には診療報酬の問題も関わってくる。昨年度より、院内マネジメントシステムの導入やH.Pで簡単に事例を検索できるシステムを構築している。また26年度改正で、医療勤務環境改善支援センターを



厚生連病院の実態を訴えた

設置し、アドバイザーの配置など、ワンストップでの対策を整備する」と回答がありました。

介護職員の待遇改善と南相馬地域の介護職確保の問題については、「被災地における福祉介護人材確保策として、1・9億円の研修受講費や就職準備金を貸与している」との回答がありました。

「いま必要なのは、有資格者の確保と住宅だ。低賃金が早期離職を生んでいる。処遇改善交付金の再制度化を」と抜本的な対策を求めました。

参加者からの感想

南相馬の介護需要対策を求めて

福厚労・二瓶研朗

4月1日から事務職（医事課）より労働組合専従となりました。初めての参加で戸惑いを感じたことも多く、私個人としては、何もお役に立てない事への申し訳ない気持ちを抱きながらの一日でした。

そんな中、同じく参加していた福厚労の折笠委員長をはじめ、全厚労のみなさんの発言は大変頼もしく感じられ、実情に心情を加えながらの要請

秋田・湖東病院が新築再開

住民の会で開院祝う



湖東新病院を祝う住民集会

秋田・湖東総合病院は、4年前の廃院を含めた提案を、存続を目指す「住民の会」が立ち上がった、様々な運動を行う中で、「湖東厚生病院」として新築・再開をこの春に果たしました。

これを祝って6月14日には「湖東新病院を祝う住民集会」が開かれ、69人が参加。集会では第一部で、中鉢院長と住民代表2名からの「私のひとこと」が述べられ、第二部では祝賀会が行われました。



地域住民で賑わった病院見学会（4月20日）

当初、会の終息を提案した「住民の会」は、集会で出された住民の意見を尊重して、今後の事を話し合っていくことになりました。

に対し、厚生労働省の職員がうなずき理解を示している様子を見ると、今後の医療体制に期待を感じることになりました。

要請の中で、南相馬地域の介護職員確保対策を求めた部分がありました。私自身が福島という事もあり、より注目したという点もありますが、南相馬地域は未だ大震災と原発事故で終わりの見えない状況が続く中、避難の影響で介護需要が高い地域となっています。介護職確保が非常に重要ですが、現状は、その人た

ちも避難しているため、確保が困難です。さらには、人が確保できても、その人達が生活する住宅がないという実態です。被災地復興という思いが国としてあるのであれば、今からでも早急な対策を期待してしまう次第です。こういった思いを実現していく上でも、厚生労働省交渉に参加して現場の声を直接訴えることは大変良い機会であり、このような行動は重要であると感じました。

もっと現場を見て欲しい

茨厚労・菅野弘子

今回初めての参加で貴重な発言までさせていた

だきありがとうございました。勤務実態の部分については真剣に聞いてくれたように思います。

医療現場での医師不足、看護は現場を見ないと実態は分かりません。何科の医師が足りないのか、なぜ看護師が不足しているかについて、本当には把握されていないように思いました。へき地医療の問題では、なぜへき地に医師が行かないのかまでは考えていないのでしょうか。

担当官から難しい言葉を並べられても私たちに分からない部分もあり、数字上のデータでしかないように感じました。ほとんどの事が県に丸投げされているように見

えて、その県も本当の実態はつかめていないと思います。そのような状態で担当を集めてもなかなか解決策には行き着かないのではないのでしょうか。

在宅へシフトすると言っても共働き世帯でどうみても言うのか、かかりつけ医といっても土日は診てもらえず、結局はたらい回し問題が出てくるでしょう。もし自分の親や身内が同じ事になったらどうするのでしょうか。そう考える事はないのだろうか、と思いました。

交渉を改善に繋げるにはまだまだ時間がかかると思いますが、大変勉強になりました。ありがとうございました。



頑張る仲間
各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第86回は茨城と高知にお願いしました。



茨城 東峰智史さん

JAとりで総合医療センター放射線技師の東峰智史（とうみねさとし）さんをご紹介します。東峰さんは、茨厚労青年部副部長を務め、若者らしい元気なノリの方で、長年組合をやってきたベテランのような(!?)思慮深さの両面を持って、青年部とともに支部の活動も盛り上げてくれています。「どうせ働くなら、みんなで問題点を改善して良い職場にしよう」「せっかく企画をやるなら、たくさんの人に参加してほしいから、もっと組合加入をアピールしよう」と真面目に語る熱い男！これからも頼りにしてますよ！

JAとりで総合医療センター放射線技師の東峰智史（とうみねさとし）さんをご紹介します。東峰さんは、茨厚労青年部副部長を務め、若者らしい元気なノリの方で、長年組合をやってきたベテランのような(!?)思慮深さの両面を持って、青年部とともに支部の活動も盛り上げてくれています。「どうせ働くなら、みんなで問題点を改善して良い職場にしよう」「せっかく企画をやるなら、たくさんの人に参加してほしいから、もっと組合加入をアピールしよう」と真面目に語る熱い男！これからも頼りにしてますよ！

高知からは、看護師の波除美千子（なみよけみちこ）さんをご紹介します。

波除さんは全厚労の担当を今までに、女性委員・看護委員、現在は平和委員で活躍してくれています。全国の皆さんも、もしかしたら！どこかでお会いしているのではないのでしょうか？

波除さんは職場でもプライベートでも変わらず、落ち着いていてとても自然体な感じです。しかし、そんなナチュラルな波除さんですが、実は…。遊園地では絶叫系がお好みようで、以前組合でUSJに行った時、ジェットコースターに乗って「楽しい〜！」と、超ごきげんでした。このギャップが波除さんの魅力ですね。

これからも高厚労の女子達をよろしくお願いします。

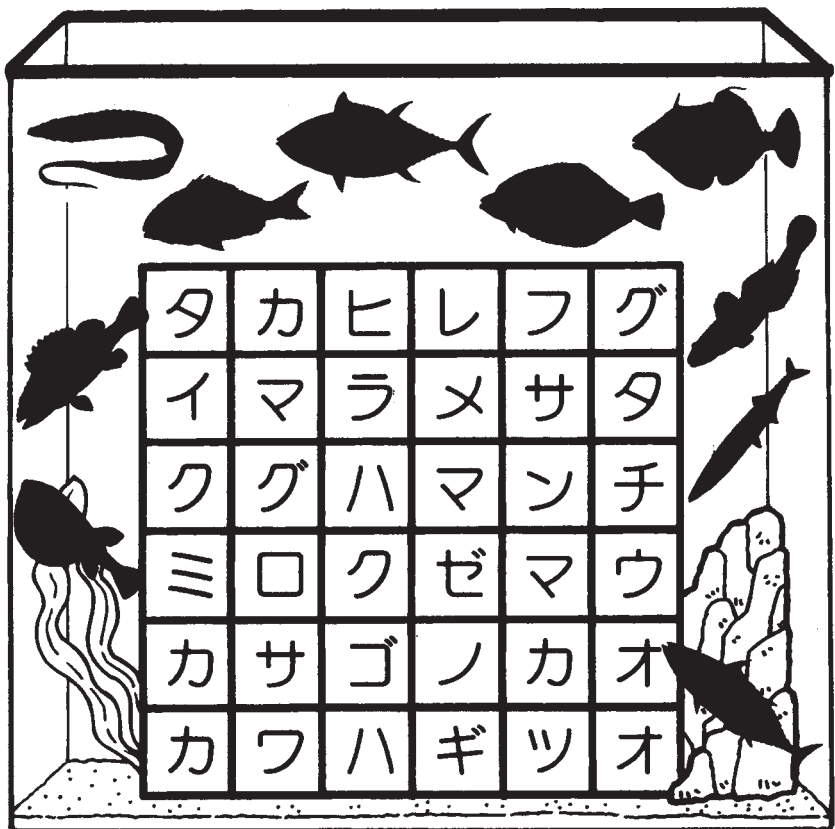


高知 波除美千子さん

魚影クイズ

問題

シルエットをヒントに語群から、10種類の魚の名前を抜き出してください。最後に残った7文字をつなぎ合わせると、ある魚の名前になります。それは何でしょう？
（作・野上和彦）



当選者（読者の声掲載者含む）10名様に図書カードを差し上げます
今回パズルを変えてみました。答えと本紙の感想などを添えて下記まで先へお送りください。
当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。（4月の答え：サクラモチ）

締め切り：2014年7月20日 消印有効
あて先：〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5-6F 全厚労 ニュース係

組合行事や
レクレーション、
家族旅行にも

～行事スポット保険～

夏に向けて家族旅行などの計画を立てている組合員さんも多いでしょう。また組合行事としてレクレーションや様々な行事も企画されているかと思います。組合活動中の事故等の補償として「団結共済」がありますが、「行事スポット保険」は、組合などの日帰り行事に対する補償や組合員と家族含めた国内旅行・海外旅行時の事故や治療、他人にケガをさせた場合などの賠償責任保険など多様な補償が準備されている保険です。

7月から行事スポット保険の国内・海外旅行掛け金と給付金に変更になり、パンフや加入申込書も新しくなりましたので、保険を考えている方・組合は医労連共済（0120-160931）にお問い合わせ下さい。

【国内旅行(例)※これ以上の日程もあります】(1名あたり)

旅行日程	1泊2日	3泊4日まで	6泊7日まで
傷害死亡保険金	428万円	624万円	745万円
傷害後遺障害保険金	428～17.12万円	624～24.96万円	745～29.80万円
入院保険金(日額)	5000円	5000円	5000円
通院保険金(日額)	2000円	2000円	2000円
手術保険金	入院保険金日額の「5倍又は10倍」		
賠償責任保険金(自己負担なし)	3000万円	3000万円	3000万円
1名あたり保険料	300円	400円	500円

読者の声

4月から看護師として姉と同じ病院で働くことになりました。まだまだ不安で大変ですが、職場の方々がやさしくしてくれて何とかやっています。組合にも入り、たくさんの行事にも参加していきたいです。
（秋田）

—— 皆さんの行事に参加すれば、皆さんの知り合いが出来るのでどんどん参加して下さいね。
（OK）

メンタルヘルス対策重要ですね。仕事、家事、子育てなど毎日毎日忙しくて、おまけに夜勤で寝不足で気力も体力もヘトヘトにな

ります。いかにストレス解消を上手におこなって元気に過ごすかで、とりわけ夢中になれる趣味もないので何か見つけたいです。
（秋田）

—— 長時間・不規則勤務を規制し、アサーティブ（他者を尊重した自己表現）なコミュニケーションのとれる職場づくりで、ストレスとは上手に対応していきたいですね。
（ON）

徳厚労のパレードの記事を読んだ、すごい事だなあと感心しました。でも写真を見る限り、みんな楽しんで参加しているのが分かります。これからも頑張ってください。
（岐阜）

—— みんなで何かをやるとパワーをもらえますよね。そんな力

がこの徳島のパレードにはあるのではないのでしょうか。笑顔があるのはいい雰囲気という事です。
（OH）

—— 会社は人の体に似ているという話を聞きました。経営者が脳だとすると現場の労働者は手足。脳の指令が手足に伝わらないと身体が思い通りに機能しないのはもちろんですが、手足の感覚を脳がきちんと把握しなければ、適切な指令は送ることができません。労使の関係というのは、本当に大切なものだということを再確認しました。
（岐阜）

—— 現場のことを理解しようとしない経営者や管理者が多すぎますね。私たちがもっと伝える事も大事です。
（YN）